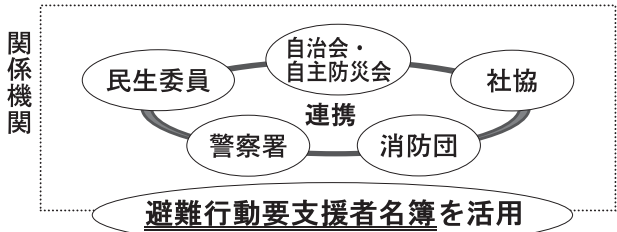


避難行動要支援者支援制度のしくみ



市役所に災害対策本部設置

↓ 連絡



↓ 連絡

支援者
(隣近所の方など)

安否確認 ↓ 避難所までの付き添い

要支援者
(障害者・ひとり暮らしの高齢者など)

台風の接近や地震の発生などにより、災害の発生が予測される時は、市が災害対策本部を設置し、警戒にあたります。

市から関係機関に連絡し、災害への備えや注意を促します。

災害時に支援の必要なひとり暮らしの高齢者や障害者など（要支援者）からあらかじめ同意を得て共有している「避難行動要支援者名簿」を関係機関で活用します。

「支援者」に連絡を取り、支援のお願いをします。

「支援者」は「要支援者」の安否確認や避難所までの付き添いなどの支援を行います。

地震に備えて

自主防災組織育成研修会を開催しました

7月11日(月)、市役所で自主防災組織や自治会役員の皆さんを対象に、自主防災組織育成研修会を開催しました。約80人の方が参加されました。

研修内容

今回は、2組の講師を招き、震災から身を守る具体的な方策について学びました。

はじめに、広島県自主防災アドバイザーの柳迫長三さんから「地震に備えて」をテーマにした講演がありました。家具の転倒防止や、震災に遭う確率が最も高く、無防備になりやすい寝室の安全化など、地震に対する日々の備えについて伺いました。

また、「自分の身は自分で守る」という自助に対する強い意識を持って準備することや、地域の自主防災組織の設立と活性化により、「自分たちのまちは自分たちで守る」という共助の精神を持ち、災害に強いまちづくりを目指すことが必要とお話がありました。

次に、DCMダイキ株式会社か

問い合わせ 総務課 ☎2119

ら「今から出来る減災対策」をテーマに講演がありました。阪神・淡路大震災でテレビや家具の転倒による犠牲者が多数出たことを教訓に、家具などの転倒防止の必要性を伺いました。また、実際の部品や工具を手に実演を交えながら、取り付けのコツや費用などを教わりました。

参加者の皆さんからは「大きな地震の発生はあまり心配していなかったが、熊本であんな巨大地震があった。我々も他人事と思っはいけない」、「家具の固定の費用や方法など、具体的な説明があったて良くわかった」などの感想が数多く聞かれました。

